

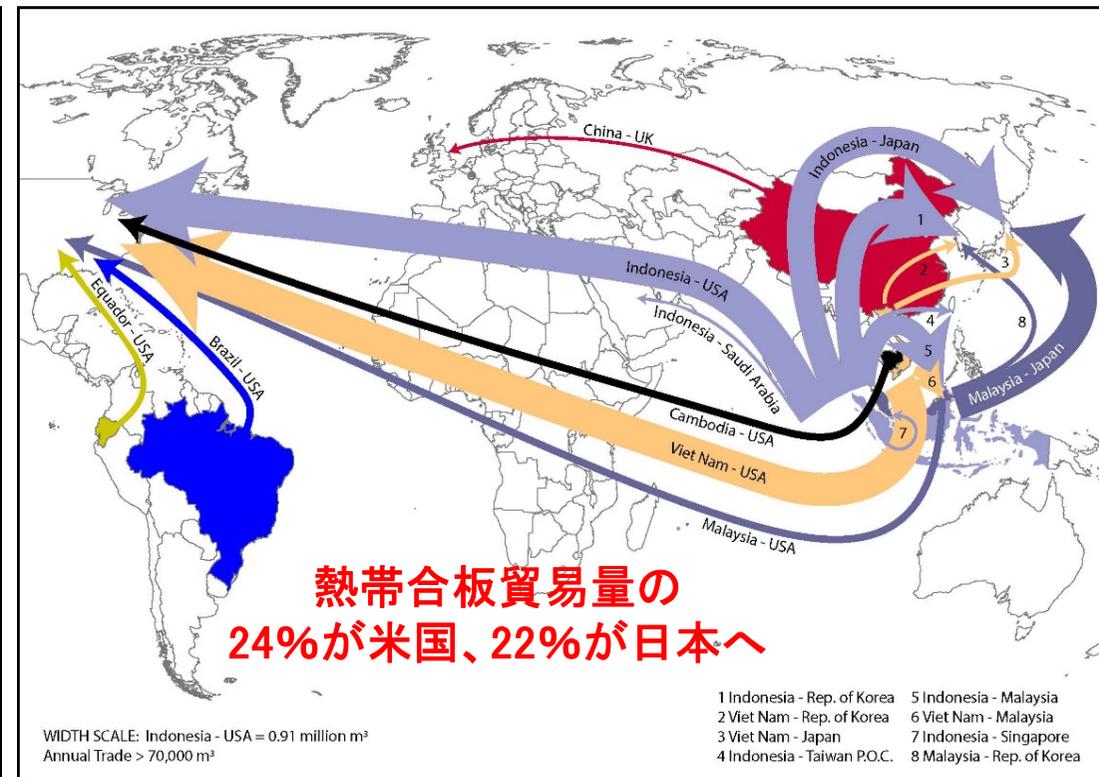
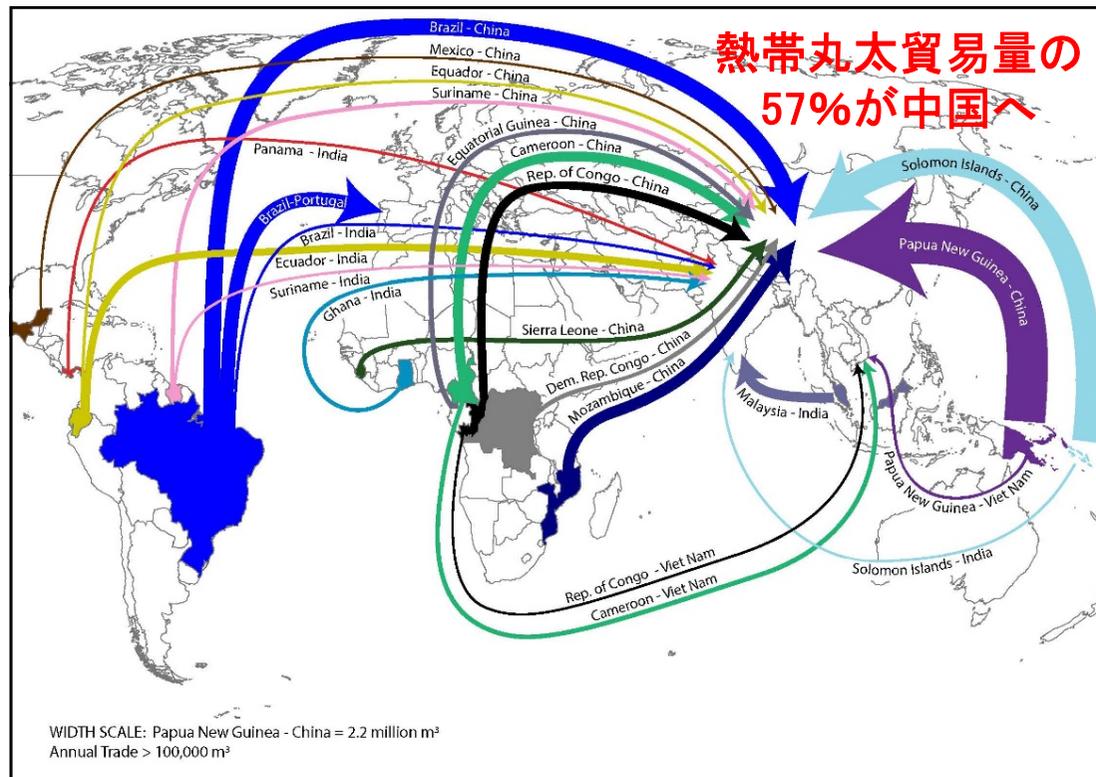
熱帯木材貿易の動向

－ ITTO「世界の木材に関する隔年評価報告書2021-2022」より －

令和6年3月
林野庁 木材貿易対策室

1. 熱帯木材貿易の概況

- 2022年における世界の熱帯丸太生産量は3.2億 m^3 (※全丸太の16%)。うち、インドネシア24%、インド15%、ベトナム10%。
- 世界の熱帯丸太輸入量は1,080万 m^3 。最大の輸入国は中国(618万 m^3 、世界シェア57%)で、主にPNGとソロモン諸島から熱帯丸太を輸入。近年、アフリカからの輸入も増加。
- 世界の熱帯合板生産量は4,894万 m^3 (※全合板の38%)。うち、中国56%、インド20%、インドネシア9%。
- 世界の熱帯合板輸入量は768万 m^3 。うち、米国24%、日本22%(166万 m^3)。
- 我が国は、世界第2位の熱帯合板輸入国。1998年まで世界最大の熱帯丸太輸入国であったが、現在のシェアは0.3%。



資料: ITTO (2023) Biennial review and assessment of the world timber situation 2021-2022」

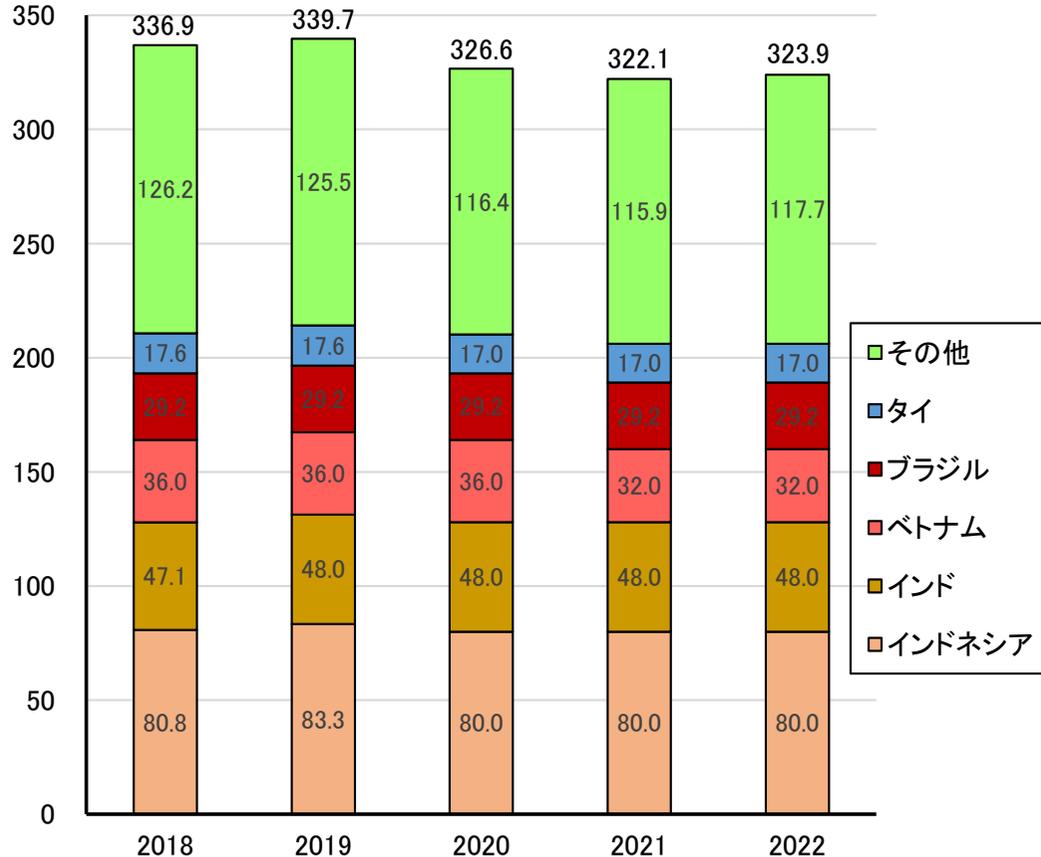
熱帯産丸太の貿易(2021年)

熱帯産合板の貿易(2021年)

2. 熱帯丸太の生産量・消費量

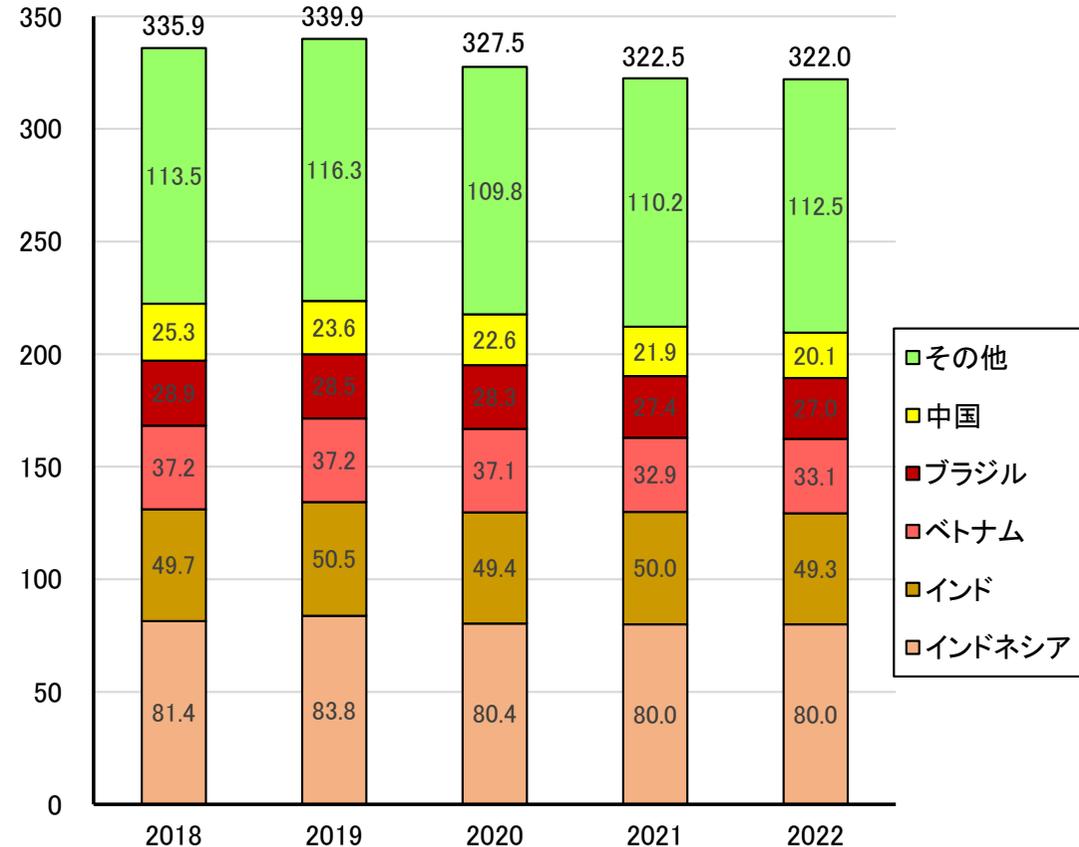
- 2022年における世界の熱帯丸太生産量は、前年比0.6%増の3.2億m³。インドネシアが最大の熱帯丸太生産国で、世界全体の24%を占める。生産量のほぼ全てを国内で消費。紙・パルプ用の産業造林地からの生産が大部分を占める。
- 次いで、インド：15%、ベトナム：10%、ブラジル：9%、タイ：5%。
- 同年における世界の熱帯丸太消費量は、前年比0.1%減の3.2億m³。インドネシアが最大の熱帯丸太消費国で、世界全体の25%を占める。次いで、インド15%、ベトナム10%、ブラジル8%、中国6%。

(百万m³)



熱帯丸太の生産量の推移

(百万m³)



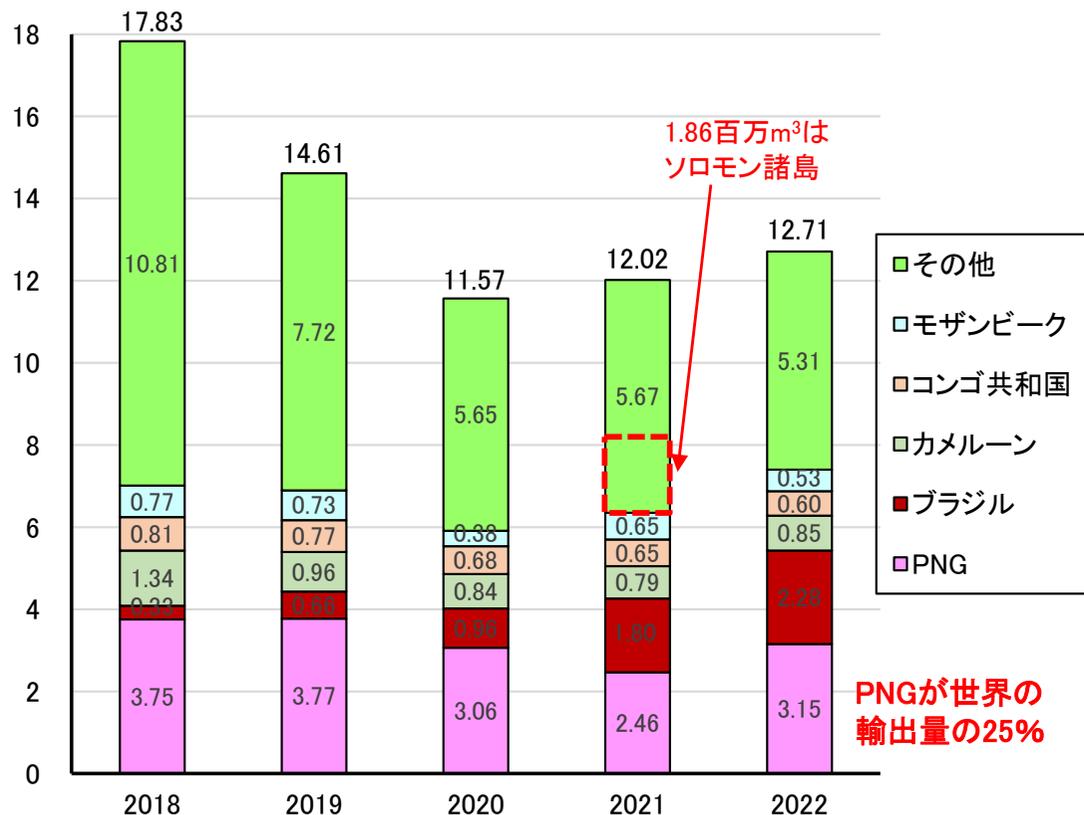
熱帯丸太の消費量の推移

資料：ITTO(2023)より作成(以下同)。

3. 熱帯丸太の輸出量・輸入量

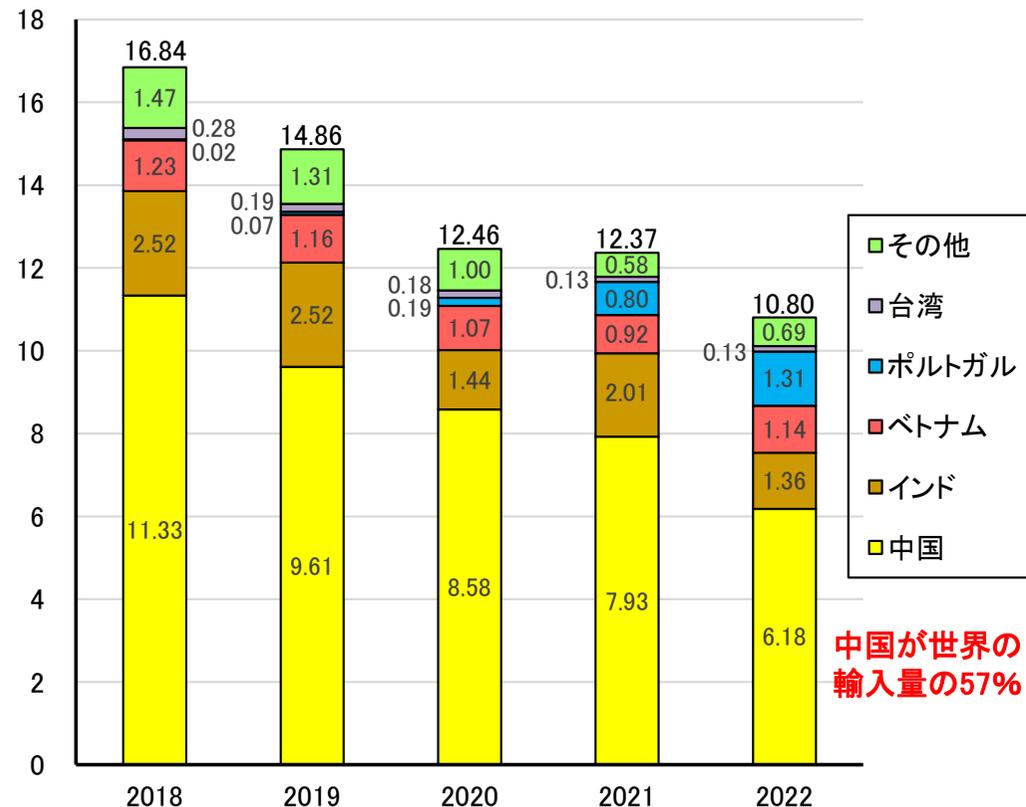
- 2022年における世界の熱帯丸太輸出量は、前年比5.8%増の1,271万m³。パプアニューギニア(PNG)が最大の輸出国で、世界全体の25%を占める。同国からの輸出量の90%が中国向け。
- ソロモン諸島からも、2021年に186万m³を輸出(※ソロモン諸島はITTO非加盟国のため、詳細データなし)。
- 次いで、ブラジル:18%、カメルーン:7%、コンゴ共和国:5%、モザンビーク:4%。近年、ブラジルからの熱帯丸太(ユーカリ類)の輸出が急増。アフリカ材の主な輸出先は、中国、インド、ベトナム。
- 同年における世界の熱帯丸太輸入量は、前年比13%減の1,080万m³。中国が最大の輸入国で、世界全体の57%を占める。
- パルプ用材の需要増加や国内での造林地拡大困難により、ポルトガルのブラジルからの輸入量が増加傾向。

(百万m³)



熱帯丸太の輸出量の推移

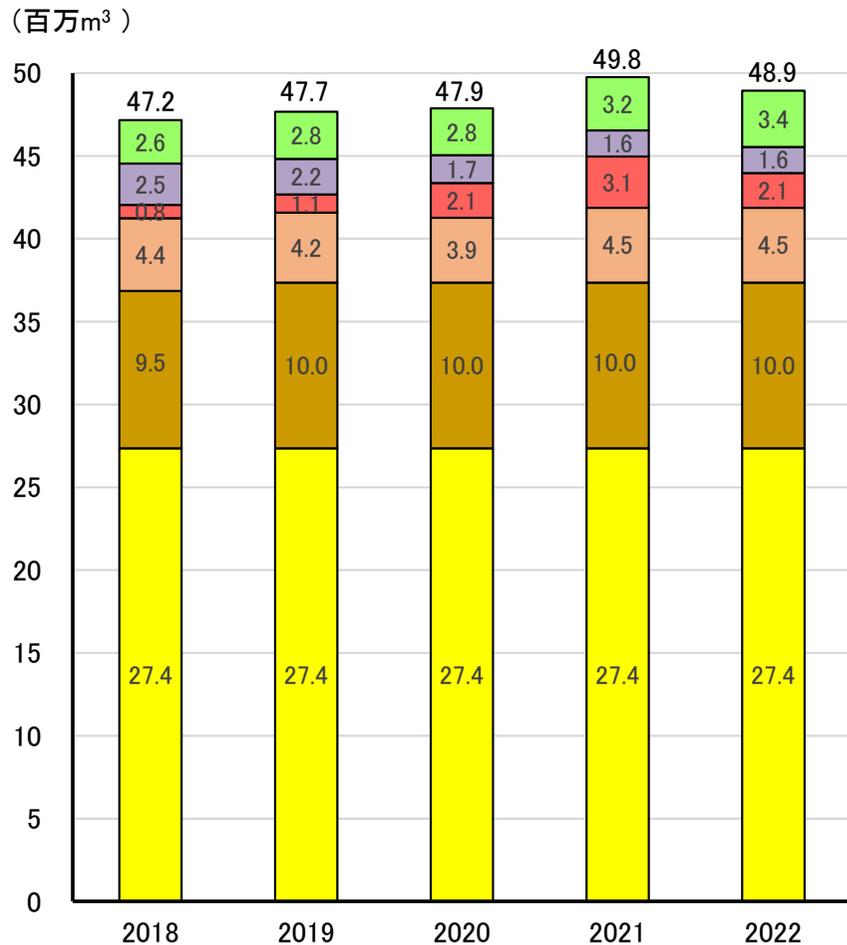
(百万m³)



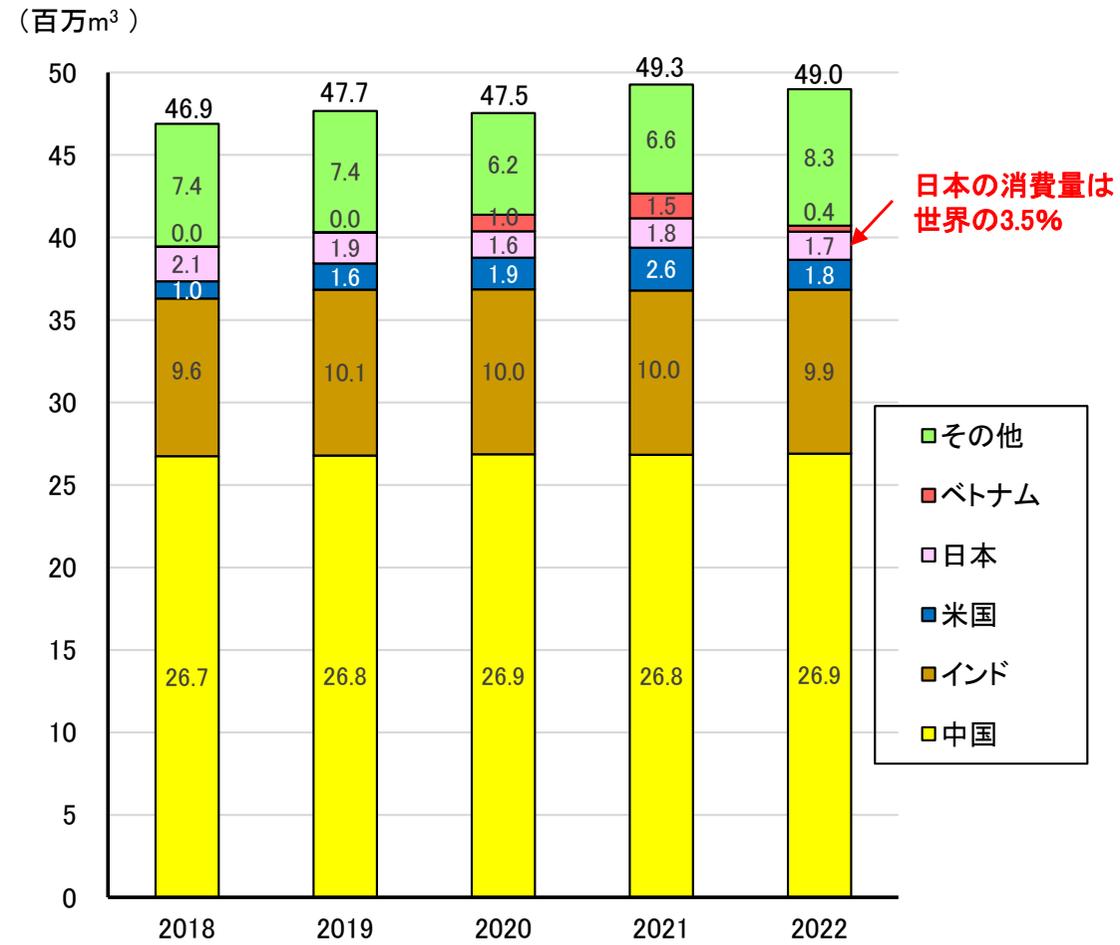
熱帯丸太の輸入量の推移

4. 熱帯合板の生産量・消費量

- 2022年における世界の熱帯合板生産量は、前年比1.6%減の4,894万m³。中国が最大の生産国で、世界全体の56%を占める。生産量のほぼ全てを国内で消費。インドの合板生産は、過去10年間で大きく拡大し、近年は1千万m³で横ばいに推移。原料は輸入丸太に依存。
- マレーシアでは、原料丸太の入手困難化により、生産量が減少傾向。
- 同年における世界の熱帯合板消費量は、他資材との競争激化により、前年比0.6%減の4,898万m³。中国が最大の消費国で、世界全体の55%を占める。日本の消費量は170万m³で、世界全体の3.5%。



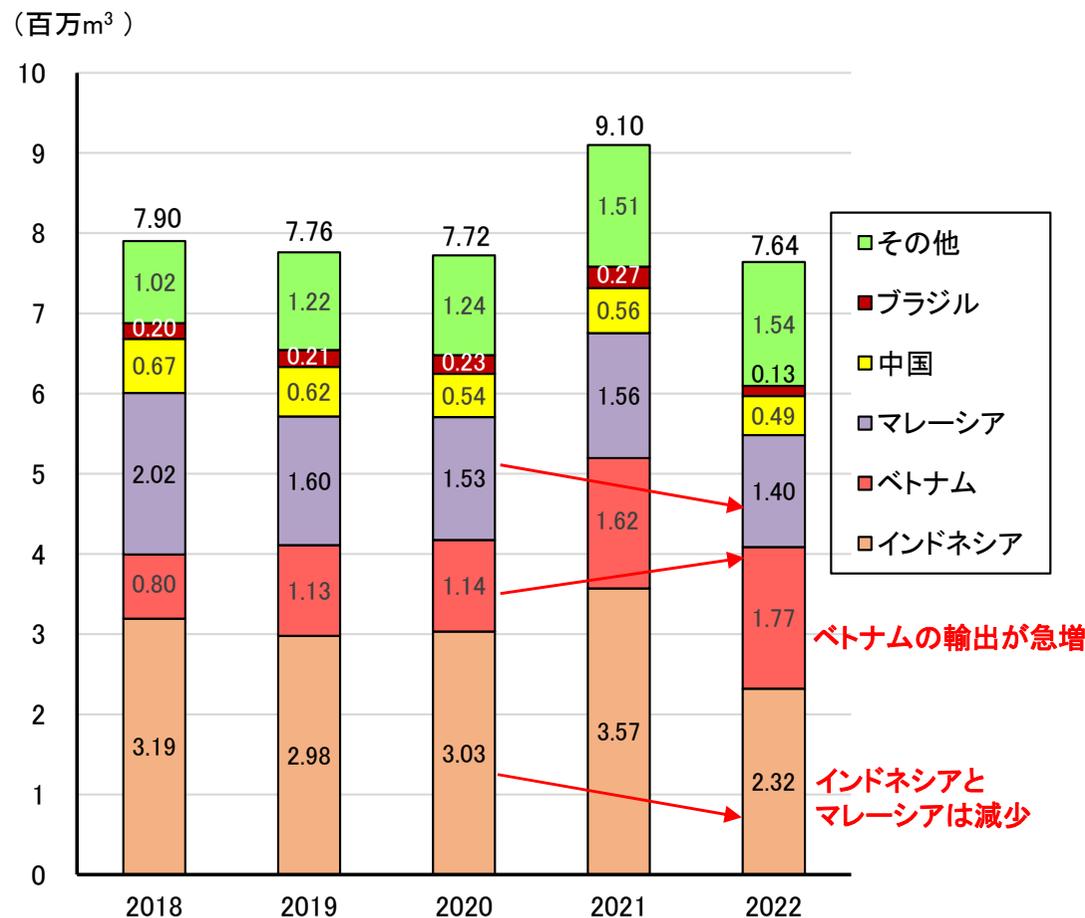
熱帯合板の生産量の推移



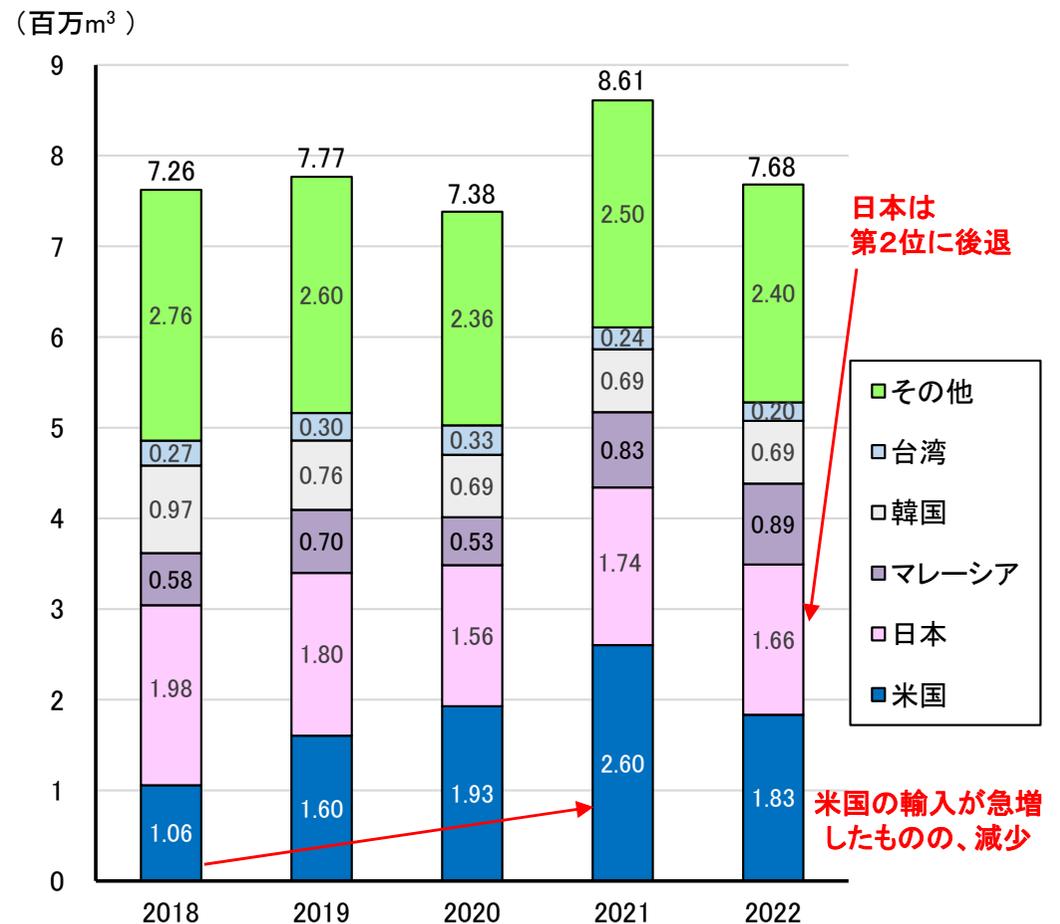
熱帯合板の消費量の推移

5. 熱帯合板の輸出量・輸入量

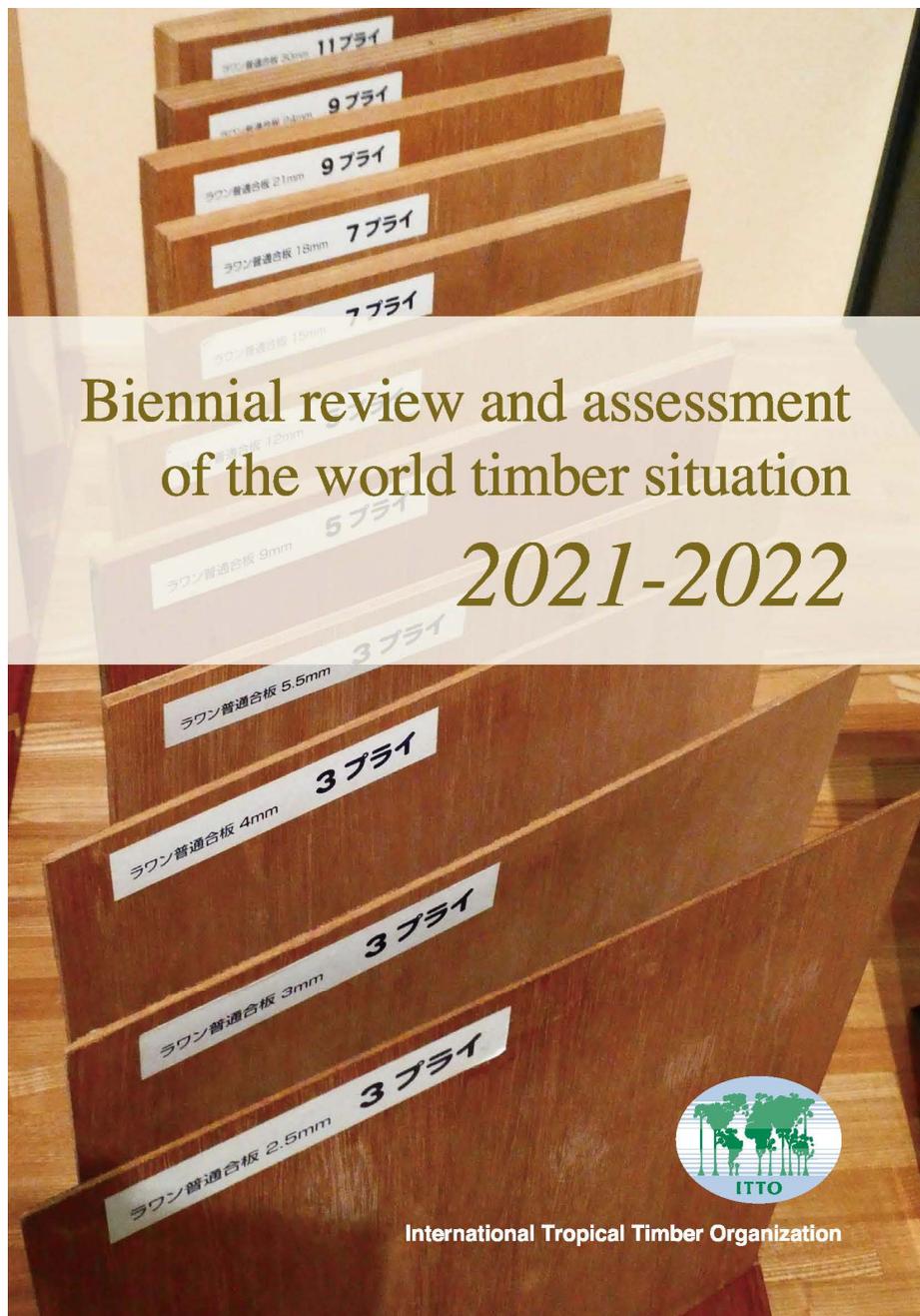
- 2022年における世界の熱帯合板輸出量は、前年比16%減の764万m³。インドネシアが最大の輸出国で、世界全体の30%を占める。インドネシアとマレーシアでは、コロナ禍に伴う丸太供給減少、労働力不足、コンテナ不足等により、輸出量が減少。
- 米中貿易紛争により、米国が中国産の広葉樹合板に相殺関税等を課したことから、中国企業は合板の生産拠点をベトナム等に移転。これにより、中国からの輸出が減少する一方、ベトナムからの輸出が急増。
- 同年における世界の熱帯合板輸入量は、前年比11%減の768万m³。米国では、コロナ禍以後の住宅需要急増により、輸入が急増したものの、サプライチェーンの問題、労働力不足、住宅のエネルギー効率に関する規制等により減少。日本は、これまで世界最大の熱帯合板輸入国であったが、2020年以降、米国に抜かれて第2位に後退。



熱帯合板の輸出量の推移



熱帯合板の輸入量の推移



Biennial review and assessment of the world timber situation 2021-2022

- ITTOは、国際熱帯木材協定(ITTA)第28条に基づき、隔年で「世界の木材に関する隔年評価報告書」を作成・公表。2023年9月に、2021-2022年版を公表。
- 本報告書は、特に熱帯木材に焦点を当てて、2021～2022年における世界の木材市場の動向を整理。
- 本文3章(36頁)と附表(148頁)から構成。
 - 第1章：主要な熱帯木材市場の動向
 - 第2章：熱帯木材製品(熱帯丸太、製材、単板及び合板)の生産、消費及び貿易に関する分析
 - 第3章：(木製家具等の)二次加工製品の貿易に関する分析
- 以下のサイトより入手可能。
https://www.itto.int/ja/annual_review/

※本報告書における「熱帯木材(tropical timber)」の定義は、「北回帰線と南回帰線の間位置する国で生育する又は生産される産業用の熱帯(に生育する)木材」(※針葉樹を含む)。